

2007年3月期 中間決算説明会

2006年11月10日
日本郵船(株)



NYK LINE
NIPPON YUSEN KAISHA

目次

- 1) 06 / 9期 決算 (P.2 – P.5)
- 2) 07 / 3期 業績予想 (P.6 – P.8)
- 3) セグメント別状況 (P.9 – P.12)
- 4) トピックス (P.13 – P.17)
- 5) New Horizon 2007 レビュー

06 / 9期 決算サマリー

1) 売上高 / +17%、経常利益 / -38% の増収減益 (億円)

		売上高		営業利益		経常利益		純利益	
05/9期		8,995		805		792		484	
06/9期		10,536		471		489		296	
増減	%	1,541	17%	-334	-41%	-303	-38%	-188	-39%

2) 海運業部門：海運業合計で 270 億円の減益

3) 非海運部門：主要3部門合計で 48 億円の増益

4) 為替・燃料油：(05/9期 vs 06/9期・期中平均比較)

為替レート 5.87円の円安 (109.39円 115.26円)

燃料油価格 \$76.20/MT高 (\$259.84/MT \$336.04/MT)

前年同期比増減分析

(億円)

円安	41	今期 115.26円 / 5.87円の円安
燃料油高	114	今期 \$336.04/ \$76.20の燃料油高
海運市況変動など	263	
非海運部門	33	NCA を含まず
コスト削減	56	海運 49億円、非海運 7億円
新規連結	56	NCA 66億円
合計	303	

経常利益(年間)に対する感応度

為替 1円の円安で約 14 億円の増益

燃料油 \$ 1/MTの燃料油価格上昇で約 3 億円の減益

06 / 9期・前年同期比較 (セグメント別)



(億円)

売上高	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
05/9月期	2,605	3,231	1,991	560	234	63	818	507	8,995
06/9月期	2,906	3,706	2,278	622	242	58	1,389	665	10,536
増減	302	474	287	62	8	5	571	158	1,541

経常利益	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
05/9月期	162	526	55	8	24	19	1	0	792
06/9月期	48	466	72	24	39	20	84	0	489
増減	211	60	17	16	15	1	82	0	303

(売上高)	06/9	05/9	増減	増減率
不定期船	3,126	2,705	421	15.6%
タンカー	580	527	54	10.2%
計	3,706	3,231	474	14.7%

06 / 9期・修正(8/4)予想比較 (セグメント別)



(億円)

売上高	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
06/9期予想	2,769	3,647	2,350	605	239	58	1,404	742	10,330
06/9期実績	2,906	3,706	2,278	622	242	58	1,389	665	10,536
達成度	105%	102%	97%	103%	101%	100%	99%	-	102%
増減	137	59	72	17	3	0	15	-	206

経常利益	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
06/9期予想	70	441	73	16	33	20	58	0	455
06/9期実績	48	466	72	24	39	20	84	0	489
達成度	-	106%	99%	152%	117%	100%	-	-	107%
増減	22	25	1	8	6	0	26	-	34

(売上高)	06/9期 実績	06/9期 修正予想	増減	達成度
不定期船	3,126	3,107	19	100.6%
タンカー	580	540	40	107.5%
計	3,706	3,647	59	101.6%

07 / 3期 通期業績予想サマリー

- 1) 業績予想 : **経常利益 + 150億円の上方修正**
- 2) 海運業部門: 燃料油高の一服と不定期船市況の好調を織り込み **通期経常利益 + 170億円**
- 3) 非海運部門: 積高予想の下方修正によるNCAの減益を主要3部門の利益上積みで補いきれず、**通期経常利益 20億円**
- 4) 為替・燃料油前提:
 - 為替レート ¥110.00に据え置き
 - 燃料油価格 下期:\$330/MTに引き下げ
 - 経常利益(下期)に対して +53億円の増益要因
- 5) 配当予想 : **年間18円(中間9円+期末9円)を維持**

07 / 3期通期業績予想

(億円)

	前回(8/4)予想			今回予想			増減		
	上期	下期	通期	上(実)	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	10,330	10,520	20,850	10,536	10,464	21,000	206 2%	-56 -1%	150 1%
営業利益	440	580	1,020	471	679	1,150	31 7%	99 17%	130 13%
経常利益	455	545	1,000	489	661	1,150	34 7%	116 21%	150 15%
純利益	280	310	590	296	384	680	16 6%	74 24%	90 15%

為替	¥112.36	¥110.00	¥111.18	¥115.26	¥110.00	¥112.63	¥2.91	¥0.00	¥1.45
燃料油	\$353.41	\$365.00	\$359.21	\$336.04	\$330.00	\$333.02	-\$17.37	-\$35.00	-\$26.19

下期 為替 前提 : 110円/\$
 下期 燃料油価格 前提 : \$330/MT



07 / 3期・通期業績予想 (セグメント別)

(億円)

売上高	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
前回予想	5,434	7,268	4,839	1,187	424	115	3,011	1,427	20,850
今回予想	5,600	7,350	4,840	1,205	420	116	2,922	1,453	21,000
上期実績	2,906	3,706	2,278	622	242	58	1,389	665	10,536
下期予想	2,694	3,644	2,562	582	177	59	1,533	788	10,464
増減	166	82	1	18	4	1	89	26	150

経常利益	定期船	その他海運	物流	ターミナル	客船	不動産	その他	消去・全社	連結
前回予想	170	968	171	35	15	34	53	0	1,000
今回予想	90	1,056	182	45	27	35	105	0	1,150
上期実績	48	466	72	24	39	20	84	0	489
下期予想	42	590	110	21	12	15	21	0	661
増減	80	88	11	10	12	1	52	0	150

(売上高)	今回予想	前回予想	増減	増減率
不定期船	6,190	6,147	43	1%
タンカー	1,160	1,121	39	3%
	7,350	7,268	82	1%

セグメント別状況

1. 海運業 - 1)

コンテナ船: 旺盛な荷動きを背景に**運賃の維持/修復を図る**
一方、**ループ再編を含むコスト削減**に取り組む

輸送量実績(千TEU)

	05/上期 (実)	06/上期 (実)	増減	(%)	06/上期 (予想)	06/上期 (実)	増減	(%)	05年度 通期(実)	06年度 通期(予)	増減	(%)
アジア 北米	349	367	18	5.2%	366	367	1	0.3%	702	748	46	6.6%
(消席率)	87%	88%			87%	88%			86%	88%		
アジア 欧州	194	234	40	20.9%	235	234	-1	-0.4%	403	469	66	16.3%
(消席率)	91%	93%			93%	93%			90%	93%		

* 欧州航路は06年度実績数値より域内航路を除外した為、一部Restateしております。

自動車船: 合理的配船で船腹増を上回る輸送台数を吸収

輸送台数実績(万台)

	05/上期 (実)	06/上期 (実)	増減	06/上期 (予想)	06/上期 (実)	増減	05年度 通期(実)	06年度 通期(予)	増減	(%)
全航路	143	162	19	158	162	4	286	323	37	12.9%

セグメント別状況

1. 海運業 - 2)

バルク・エネルギー輸送部門の市況動向(指数)

	04年度	05年度			06年度		
		上期 (実)	下期 (実)	通期 (実)	上期 (実)	下期 (予)	通期 (予)
撒積船(ケープサイズ)	100	66	59	63	63	75	69
撒積船(ハンディサイズ)	100	70	65	68	81	84	82
VLCC	100	52	90	71	67	87	77

撒積船 : ケープは、**長契主体の船隊拡充**で前年比増益。
ハンディはバンカー高、傭船料の上昇で減益。

タンカー : VLCCは前年並みの利益を確保するが、
石油製品船マーケットは前年度を下回る。

セグメント別状況

2. 物流事業

1) NYK Logistics (陸上物流部門): 着実な利益成長続く。

	05 / 上期(実)	05 / 通期(実)	06 / 上期(実)	06 / 通期(予)
経常利益	16 億円	36 億円	21 億円	71 億円
前年比			5 億円	35 億円

2) YAS (航空フォワーダー部門):

海外事業の拡大により好調維持。

	05 / 上期(実)	05 / 通期(実)	06 / 上期(実)	06 / 通期(予)
経常利益	39 億円	94 億円	51 億円	110 億円
前年比			12 億円	16 億円

本表は、当社連結会計上の実績であり、YAS個別の実績とは異なります。

セグメント別状況

3. ターミナル関連事業

- 1) YTI (ロサンゼルス)では、北米西岸への貨物回帰にも関わらず、順調なオペレーションが続く。
- 2) CTE (アムステルダム)に、GA 以外の定期船も寄航開始、取扱高が着実に増加。

4. 客船事業

- 1) 飛鳥 は、大型化にも拘わらず高乗船率を維持。
- 2) クリスタルは、フリートの合理化が奏効し、乗船率・運賃率ともに上昇。

NCA 06 / 9期実績

1) NCA 06/9期実績の前回(8/4)予想比較

(億円)

	05/9期 実績	06/9期 8/4予想	06/9期 実績	増減
				8/4予想比
売上高	480	497	486	11
経常利益	56	50	85	35
為替	¥109.39	¥112.60	¥115.26	¥2.66
MOPS	\$71.62	\$86.25	\$85.68	-\$0.57

(感応度) 燃料油 : \$1 / BBL あたり 4億円 / 年

為替 : ¥1 / ドル あたり 0.4億円 / 年

アジア発貨物のポートフォリオ悪化、**クラシック機材の故障**による不稼動(2ヶ月)や**老朽化対策**、自立早期化に伴う費用増と**機材売却の下期ずれ込み**等により減収減益。

NCA 06 / 9期実績

2) 06/9期 航路別 L/F の推移

	05/9期 実績	06/9期 8/4予想	06/9期 実績	増減	
				05/9期比	8/4予想比
アジア 北米	96%	98%	98%	2%	0%
北米 アジア	75%	69%	72%	-3%	3%
アジア 欧州	90%	97%	94%	4%	-3%
欧州 アジア	92%	84%	86%	-6%	2%
日本 アジア アジア域内	47%	56%	62%	15%	6%
アジア 日本	79%	77%	77%	-2%	0%

アジア/日本 北米の積高を合算した物量によるL/F

L/F = Gross Chargeable Weight / ACL (Available Cabin Load)

05/9期比較、L / Fは往航で向上、復航で下落しているが、
06/9期 L / F向上には減便効果もあり。

NCA 07 / 3期業績予想

3) NCA 07/3期修正予想の前年同期比較

	(億円)			
	06/3期 実績	07/3期 8/4予想	07/3期 今回予想	増減 06/3期比
売上高	1,036	1,056	1,026	11
経常利益	104	44	108	4
為替	¥113.09	¥111.30	¥112.63	¥-0.46
MOPS	\$72.34	\$86.63	\$86.34	\$14.00

(感応度) 燃料油 : \$1 / BBL あたり 4億円 / 年
 為替 : ¥1 / ドル あたり 0.4億円 / 年

プラス要因 : **新鋭機効果と営業改善、機材売却益**

マイナス要因: 燃料油高、クラシック機故障と老朽化対策、
 自立早期化費用増化

NCA 黒字化への道筋

4) NCA 07/3期修正予想を踏まえ、09/3期黒字化までの業績推移

	(億円)			
	06/3期 実績	07/3期 予想	08/3期 予想	09/3期 予想
売上高	1,036	1,026	1,100	1,100
経常利益	104	108	68	2
利益増減		4	40	70
為替	¥113.09	¥112.63	¥110.00	¥110.00
MOPS	\$72.34	\$86.34	\$84.00	\$84.00
200F(機)	10.5	7.5	4.3	1.0
400F(機)	1.3	2.5	4.7	7.8
他社スペース	0.0	1.0	2.5	2.5
合計	11.8	11.0	11.5	11.3

フリートの若返りと自立化達成により、09/3期に黒字化達成！

ヤマトHDとの戦略的提携

1. YAS と ヤマトロジスティクス の共同混載スタート

- ・ システム対応完了、10月から成田 世界6都市向け共同混載を開始。中部・関西発に加え、仕向地も順次増やしていく。

2. YYGS新物流システム構築

- ・ 両グループの物流情報ネットワークシステムを連携、輸送貨物一元管理を開始。通関簡素化などでメリット。